

一人も見捨てへん教育

横浜市会議員 こんの典人

関西弁のインパクトある言葉に興味を持ち、人口28万人の茨木市（大阪府）教育委員会の「学力向上プラン」を視察しました。同市教育委員会では、平成20年度から3年間で1サイクルとして学力向上に取り組み成果をあげています。

■小中学校ともに向上

全国学力・学習状況調査

の結果では、小・中学校ともに目標を上回る正答率となり、特に中学校は全国平均を下回っていたものが6年間で大きく上回るようになりました。また、小中学校ともに正答率の高い児童生徒の割合が増え、低い児童生徒の割合が減少しています。

■目的は低位層の底上げ

「結果では、小・中学校と比べて学力が高いだろう」と思っていたのが、実際には15歳時点で学力格差が広がっていたのです。そこで、学力低位層の割合を減らすことを一番に取り組むことにしたのでした。

■各々が責任を果たす

具体的には専門指導員やスクールソーシャルワーカー

の配置、大型テレビや書画カメラの配備など、人的・物的資源や情報面での整備。さらに、「学校の実態に

応じ、しんどい学校を支援する」「学校単体ではなく、保幼小中連携教育を推進す



民進党横浜市議員

こんの典人事務所

緑区鴨居3-1-14-105

☎045-929-3030

FAX 045-342-4330

✉ konno@konno-norito.com

http://konno-norito.com/

市民相談を受け付けています。お気軽にご連絡下さい。

「ことにしたのでした。学力を高める方策という授業や指導の改善と受け止められがちです。しかし同市では、行政、教育委員会、学校が各々に責任を果たし、学力向上に結びついていると評価されています。同プランの予算だけでも6年間で6倍に拡大しているのです。」